

「取手駅西口開発」を考える

シリーズ

①

西口第一次開発 「東急ビル」



繰り返した駅前開発の失敗。これらの反省もなく、市民不在で進む「ウェルネス・タウン取手市の創造」構想。そして公有地売却への消えない疑惑…。市民の圧倒的な願いは「旧東急ビル」の再開。改めて取手駅西口開発について考えてみましょう。ご意見をお聞かせください。

「東急ビル」は、駅西口第一次開発・第一種再開発事業として、取手市が取手駅西口デッキ等とともに、1985年に完成したものです。以来、「とうきゅうストア」は、取手市民の買い物の中心的な施設としての役割を担ってきました。

駅前の元気をとりにどすに欠かせない東急ビル再開

そもそも取手市施行の開発事業

旧東急ビルは、そもそも取手市が西口デッキ等と合わせ約100億円（東急ビルに49億円）かけて行った再開発事業です。

旧東急ビルは、現在、所有権は民間（複数以上）にありますが、市の再開発事業で商業施設と位置付けて建設したものです。したがって、買い物の便利さを取り戻すことと合わせて、取手市の商工振興を図るためにも、旧東急ビルを再開させることは、取手市の責任でもあります。

東急ビル未だ先行き不透明

駅東口側の「片倉ショッピング」閉店に続き、「とうきゅうストア」が閉店して早くも2年が経過。買い物が便利ははずの駅前が不便なところとなってしまいました。多くの市民から旧東急ビルの再開が強く求められています。再開の動きはみえません。

市民も議会も

商業ビル再開求める

地権者のみなさんは、「とうきゅうストア」撤退表明以来、新たなテナント導入に懸命な努力を行い、取手市に対しても繰り返し再開のための支援要請を行っています。議会も「取手市の支援を求める請願」を採択（平成23年7月臨時議会）。しかし、取手市は「ビル」再開には消極的です。

駅前に必要な公共施設は「旧東急ビル」活用で

取手市が、「駅西口は商業施設を中心に」とした取手市のまちづくりを進めるための最上位計画・総合計画（基本構想）に違反して、談合疑惑の中、進められている「ウェルネス・タウン構想」に対し、「駅前に必要な公共施設であれば、旧東急ビルの活用で、商業施設の再開も可能では」との声もあります。

このことは、地権者の取手市への要望でもあります。駅前に市民ニーズもない「新開発計画」より旧東急ビル再開を優先することが、多くの市民の切実な願いです。

地域の商店街も大変

地場優先の商工振興策を

駅周辺だけでなく大型店撤退と空きビルの増加で、商店街の多くは、シャッター通りに…。残念ながら、取手市の地域経済振興策は、大規模な企業誘致型で市内中小企業は、ほとんど対象外です。本年度スタートした「空き店舗活用事業」の予算はわずか220万円と地域経済振興策は極めてお粗末なものです。

固定資産税減免・テナント料補助制度の創設等、旧東急ビル再開、空きビル・空き店舗再生へ、商工支援策拡充が求められています。

次号以降では、西口第二次開発＝「取手駅北土地地区画整理事業」、「芸術の杜構想」から「ウェルネス・タウン構想へ」、「ウェルネス・タウン構想」＝C街区・医療モール建設、B街区・ウェルネスプラザ、取手駅東西自由通路計画等と続きます。